

令和7年度 今治市社協グループホームゆいの家 外部評価結果（公表用）

項目	内容
自己評価実施日	4～5月中
外部評価日	令和7年6月20日（金曜日）
実施方法	運営推進会議 「自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール」
外部評価者	民生児童委員協議会会長、地域住民代表、今治市役所大三島支所、大三島支部運営委員長、伯方地域包括支援センター大三島サブセンター、今治市社協大三島支部支部長、グループホームゆいの里管理者等 計13名
開示状況	利用者及びその家族へ送付 今治市へ提出 今治市社協ホームページ・事業所内へ掲示

令和7年度 今治市社協グループホームゆいの家 (自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール)

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	職員会議で一人ひとりのケアを丁寧に検討し、「認知症が進んでも心は生きている」との理念を共有。普通の暮らしをともに営むことを大切に実践しています。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	春のお大師さん巡りや秋祭りに参加し、地域との交流が再開。散歩でのあいさつなど日常的な関わりも大切にし、「地域の一員」としてのつきあいを取り戻しつつあります。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事にも積極的に参加されていると思います。 ・施設見学時に職員はもちろん利用者からも気持ちのいい挨拶をいただきました。とても雰囲気が良かったです。 ・家、里ともに ほぼできている。 ・地域行事等によく出かけており、地域との連携がはかれている。参加し、繋がりができていると感じますが、事業所としても近所づきあいのなにか繋がりがあってもよいのかなとも思います。次回までの課題だと感じます。 		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	年6回をきちんと開催できました。市職員や地域住民の方の協力で、実りある意見交換が行われています。防災訓練などと連動した取り組みや議事録の共有を通じ、職員の認識も高まり、ケアの質の向上に活かされています。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方への報連相ができていると思います。 ・夜間のセンサー等、会議での話し合いがケアに活かされていると思います。防火訓練など参加できないことが多く、申し訳なく思います。 		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	運営推進会議を通じて事業所の課題や取り組みを積極的に報告・相談し、助言を受けています。防災訓練では防災担当者の参加、地域の消防団との連携など、大きく貢献してくれました。	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて連絡・相談しながらサービスの質の向上に取り組んでいると思います。 ・施設内でケアを受けている人のみでなく、認知症についての地域住民への発信ができ、憩いの場あるいは相談の場としても役割の持てる場であるとさらに良いと思います。それには、市や社会福祉協議会のさらなる連携が望まれます。 		

5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	玄関の無施錠を含め「身体拘束ゼロ」の取り組みを継続。定期的な研修で身体的拘束に限らず、言葉による行動制限や不適切なケアの防止にも努め、職員の意識向上を図っています。		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	研修や話し合いを重ねながら、身体拘束をしないケアにしっかり取り組まれていると感じました。安全との両立が難しい中でも、現場でよく努力されていると思います。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	定期的に高齢者虐待防止法を学ぶ研修を実施しています。一方で「虐待」は法によるアウト・セーフで判断するものではなく、不適切な声かけやケアの積み重ねであることを常に頭に置き、認知症の方の尊厳を護るケアの実践に努めています。		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	日々の声かけや対応が適切か確認し合いながら、職員間で意識して取り組まれていると感じました。研修を通じて丁寧に対応されています。今後はチェック体制の充実や、地域の方も参加できる研修など、啓発の広がりにも期待したいと思います。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	社協地域福祉課職員による研修を実施し、成年後見制度や自立支援事業の理解を深めています。現在制度利用者はいませんが、必要時に備え、正しく支援できるよう意識づけを行っています。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	契約時には十分な時間を確保し、専門用語を避けたわかりやすい説明に努めています。看取り介護加算体制開始時も、内容を丁寧に説明し、納得と同意の上で導入しました。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	ご利用者・ご家族アンケートを実施し、結果を公表。いただいた意見をもとに面会制限の緩和など運営に反映しました。声を聞き、対応する姿勢を大切にしています。		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	家族との連携がよく図られていると感じました。今後は運営推進会議時のような見学や家族交流の機会があると、アンケートでは出にくい思いや意見も共有できるのではないかと思います。実施には時間確保の難しさもありますが、今後の工夫に期待します。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	月1回の職員ミーティングに加え、昨年度は支部長による個別面談を実施。働き方の見直しやリフト設置検討など、職員の声をもとに働きやすい環境づくりに取り組んでいます。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	福利厚生や人事考課制度が整備され、安心して働ける環境が整っています。夜勤を含む勤務負担にも配慮し、休養がしっかりとれるよう職場全体で働きやすさに努めています。		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	職場の雰囲気や職員間の連携は良好で、日頃から働きやすい環境づくりがされていると感じました。職員の表情からも無理なく働いている様子が見えがえします。今後も個々の職員と話し合う機会を持ちながら、より良い職場環

							境づくりを続けていってほしいと思います。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	研修計画に基づき内部・外部研修への参加を推進し、個々の希望に応じた受講支援も実施。休暇調整や費用負担など、学ぶ意欲を尊重しながら成長を後押ししています。		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	内部研修や動画研修など、さまざまな形で学習機会が設けられていると感じました。研修で得た学びを職員間で共有することで、より理解が深まり定着につながると思います。学んだ内容を日々の実践に活かしながら、着実に取り組まれていると感じました。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	ケアマネ合同研修会や感染症対策研修に参加し、他職種・他施設との意見交換を通じて新たな気づきを得ました。交流の機会を活かし、質の向上につなげています。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	料理や洗濯、草抜きなど得意なことを活かし、力を発揮してもらい関わりを大切にしています。外出や行事では一緒に笑い、楽しみながら、暮らしを共にする関係を築いています。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	<p>面会や外出の制限が徐々に緩和され、支部サロンや季節行事などで地域の方や知人とのふれあいの機会も増えています。これまで大切にしてきた関係を保てるよう支援を続けています。</p> <p>・日々のミーティング等で皆の意見が反映されており、チームでの介護計画とモニタリングがよくできていると思います。</p> <p>・ドライブ等の外出でも慣れ親しんだ場所を五感で感じてもらっていると思う。ご家族への状況報告等で適度な関係が保たれているようにも思います。</p> <p>・入所の際、ゲートボールに迎えに行くという話も出ましたが、地域も高齢化が進みそのままになっていきます。地域と連携して活動ができれば(手があれば)と思います。</p> <p>・短時間でも面会等できたら利用者は元気が出ると思う。</p>			
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	日々の傾聴を通じて一人ひとりの思いに寄り添うケアを心がけています。認知症の BPSD がある方にはチームケア推進会議を実施し、「生活の困難さ」			

				を利用者視点で捉えるよう努めています。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	日々の傾聴を通じて一人ひとりの思いに寄り添うケアを心がけています。認知症の BPSD がある方にはチームケア推進会議を実施し、「生活の困難さ」を利用者視点で捉えるよう努めています。	「その人らしい」暮らしは、ひとりひとりの背景を知らないと難しいのかもしれないと思います。楽しい表情、嬉しい表情を見逃さずに何歳になっても、わくわくする気持ちを持っていただけるよう支援してほしいです。	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	本人主体の計画づくりを意識して取り組まれていると感じました。個々のケアの負担が大きい中でも、ミーティングなどを通じて情報共有を行い、日々の実践につなげようと努められていると感じました。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	申し送りやミーティング、介護記録の気づきをもとにケア内容を見直し、介護計画に反映しています。利用者視点で「生活の困難さ」を捉え、より良い支援につなげています。		<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	日頃から情報共有や話し合いの時間を大切にしながら取り組まれていると感じました。個別記録を丁寧に確認し、日々の支援に活かそうとされている様子が伝わってきます。今後もヒヤリハットの減少につながる取り組みを続けるとともに、職員の皆様の健康にも十分配慮していただきたいと思います。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々に対応するニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	島嶼部という地域特性をふまえ、ご家族が遠方にいる場合は病院送迎・付き添いや自宅への一時帰宅支援など、既存サービスにとられない柔軟な支援を行っています。	<ul style="list-style-type: none"> ・住み慣れたグループホームで最期を迎えたいというニーズの高まりにも対応し、医療機関と連携しながら「看取り」にも取り組んでいる。 ・お便りでの連絡等 非常に良いと思います。大変でしょうが続けてください。 ・お便りがたいへんありがたいという声を聴きました。情報発信は大切なことだと思います。お互いの理解が深まります。 ・利用者本人、家族、職員が一体となって支援、サービスが行えるのは素晴らしいと思う。 		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	新型コロナ5類移行を受けて、お大師さんの地域行事参加や長年馴染みで通っている美容院の利用などを徐々に再開する事が出来ています。今後は感染症予防に注意しながら、地域に出ていく必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事等によく出かけており、地域との連携がはかれている。 ・地域行事に参加できたら元気になるのは間違いありません。継続してください。 ・神社やお寺とのつながり、秋祭への参加、地域の料理屋さんへ協力頂いて出張食事会や地域講師を招いて習い事や音楽コンサートの機会づくり、音楽コンサートなど様々な協働ができています。 ・地域行事への参加はもちろん、地域の中にいろいろな特技を持たれている 		

					方たちがいらっしやるので協力体制ができれば生活が豊かになると思います。学校では、以前 地域の活用できる資源(人的なもの)を調べ一覧表にして年間計画の中に組み込んでいました。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の希望や馴染みの医師を尊重し継続受診を支援しています。病状により訪問診療が必要と判断される場合は、家族に丁寧な説明を行い、納得のうえで医療連携を進めています。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入退院時には医療機関と情報連携を図り、できるだけ早期に安心して退院できるよう支援しています。重度化が見られる場合も、グループホーム看護師と連携し対応できる体制を整えています。		○ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	医療機関やご家族との連携・協働が適切に図られていると感じました。入退院時の情報共有や相談体制も整っており、安心して支援が継続できる体制づくりに取り組まれていると感じました。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今年 4 月より看取り介護体制を整え、研修の実施や医療連携体制を強化しました。今後、本人とご家族の思いを大切にし、人生の最期に寄り添う尊厳あるケアの実践ができるように努めています。		○ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	終末期や看取りの場面ではチームでの関わりが大切にされていると感じました。本人やご家族の思いを尊重し、意向に沿った支援に努められていることで安心につながっていると思います。看取り介護体制への取り組みも継続されており、今後も大切にしていってほしいと感じました。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている ○ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	昨年度、職員の約 9 割が普通救命講習を受講・修了しました。今後も急変や事故に備え、応急手当や初期対応の実践力を高めるための取組を継続していきます。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	6月に夜間出火を想定した地域合同の消火・避難訓練を実施しました。さらに、水害を想定した高台への避難訓練も行い、災害後の非常備蓄や自家発電機の整備も進めました。地域との連携を強化しながら、昼夜を問わず安全に避難できる体制づくりに努めています。	・地域の住民と協力して避難訓練を実施されていることや、振り返りがなされており良いと思います。 ・色々な訓練をすることが大切。 ・消防訓練の他に災害訓練も必要です。避難訓練はくり返し行ってほしいです。 ・地域との合同の消火・避難訓練を年に1回実施しながら、顔の見える関係づくり、グループホームの理解促進をすすめながら協力体制を築いている。 ・地域の自主防災会との連携を密にし、いざという時に動けるようにしてお	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	災害対策は着実に整備が進められていると感じました。訓練を通じて利用者の状態に応じた対応力がさらに高まることを期待しています。困難も多い中で継続して取り組まれている点を大切に、今後も継続していってほしいと感じました。

					くことは、お互いのためになると思います。自主防災会側にとっても動き方の指標になると思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	理念研修等を通じ尊厳ある対応を意識している。職員自己評価では「業務優先の声かけが見られる」との意見があり、気づきを共有しながら、言葉遣いや対応のあり方を見直し、常に適切な対応を心がけている。		○ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人ひとりを丁寧にアセスメントし、職員間で気づきを共有しながら支援につなげていることが大切にされていると感じました。個々の要望への対応が求められる中でも、日々の関わりを大切にしながら丁寧に実践されていると感じました。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ご利用者の生活のペースや希望に寄り添い、軽度・重度問わずその人らしい暮らしを支援している。職員自己評価では、職員都合が優先される場面もあるとの記述があり、今後も注意を払っていく。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の好みやできることを活かし、食材の下ごしらえや盛り付け、片付けなどを一緒に行っている。食事は食べるだけでなく、準備・買い物・後片付けまで含めた生活行為として共に楽しめるよう支援している。		○ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	季節や行事にちなんだメニューなど、「食べること」が楽しみになる工夫がされていると感じました。食べたいものを一緒に作り、できることを担う機会が自信にもつながっていると思います。家庭生活の延長として家事活動に取り組まれている点も大切にされていると感じました。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人ひとりの嗜好や体調、習慣に配慮し、主食をパンに変更するなど調理法を工夫。水分摂取量は記録で管理し、少ない方には好みの飲料を選ぶ、声かけを増やす等で支援。食事形態も体調に応じてスプーンの使用など個別に対応している。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	口腔ケアは自立して行う方、声かけや介助が必要な方など個々に応じて対応。拒否がある方には口腔ケア用スポンジやガーゼを使用するなど工夫し、毎食後の清潔保持に努めている。状況を確認しながら再アプローチすることも行っている。		○ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	口腔ケアは食事の楽しみや健康維持に大切な取り組みとして、継続してほしいとの声がありました。認知症との関連も踏まえ、利用者さんの状態に応じた支援が行われていると感じました。継続した取り組みを期待されています。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレで	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている	排泄リズムの観察を基に声かけや介助のタイミングを調整。トイレ誘導や便秘予防として水分補給・服薬管理・主		○ A. 十分にできている B. ほぼできている	一人ひとりの状態や思いを大切にしながら排泄支援が行われており、安心して任せられるとの声が

		の排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	C. あまりできていない D. ほとんどできていない	治医との連携も行っている。看取り期など排泄自立が困難な方には、おむつ対応も含め尊厳に配慮した支援を実践している。		C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ありました。排泄は最期まで自分でとの思いを大切にしながら、きめ細かな対策で自立に向けた支援が実践されていると感じました。大変な中でも丁寧に取り組まれていることが伝わってきます。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入浴は原則 2 日に 1 回を基本としつつ、重度化や体調に応じて間隔や方法を調整。バイタルチェックや水分補給に留意しながら、無理のない支援を実施。看取り介護の方にも 2 人介助等で安心して入浴できるよう支援している。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人ひとりの生活リズムや体調に応じて、日中の休息や夜間の睡眠が安心してとれるよう支援している。室温・照明・音など環境調整を行い、声かけを含め個別に対応しながら、心身ともにリラックスし心からくつろげる休息環境づくりを心がけている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人ひとりの内服薬の用法・用量・副作用を把握し、異変時は速やかに主治医へ連絡。新規処方時は連絡帳に目的や注意点を記録して共有。お薬情報やお薬手帳を最新に整理し、職員が安心して支援できる体制を整えている。		○ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員同士の情報共有をさらに大切に、誰もが症状の変化に気づけるような体制づくりへの期待がありました。服薬支援については、職員間の連携がしっかりとられ、日々丁寧に取り組まれていると感じました。今後も継続した取り組みを望まれています。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・一人ひとりの生活歴や得意なこと、好きなことを把握し、日々の中で役割や楽しみが感じられるよう支援している。料理や掃除、レクリエーションだけでなく、メニュー書きや雰囲気を楽しむことも大切な役割と捉えている。重度化により難しさもあるが、声かけや環境づくりでその人らしい時間を支える工夫を続けている。職員自己評価でも意識の高さがうかがえる。 ・9 人の新しい家族。もちろん一人ひとりの楽しみの大切だけど、ひとつ屋根の下で暮らす仲間の中での役割意識やみんなと一緒にだからこそ楽しいと感じる時間や空間も大切にしたいです。(花火やそうめん流し、外で食べる芋炊きなどいいですね) ・自己有用感を持てることは家族と離れて入所されている方々にとっては大変大切なことだと思います。 ・施設見学の時に絵や書が飾ってありましたが、趣味を楽しむことが生きる力になると思う。			
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望	A. 十分にできている B. ほぼできている ○ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	・昨年度より本格的に外出支援を再開し、地域のお祭りや季節行事、今治への花見、ご利用者の地元訪問なども実施。本人の希望をもとに、日常的な散			

		を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		歩や買い物支援も継続して行っている。家族や地域の方とも連携しながら、外の空気や風景にふれる機会を大切に、気分転換や喜びのある日常につなげている。	一員になれていると感じる。(青のコンサート、敬老会、お大師さん etc) ・15の項でも書きましたが、地域と協力して活動の幅を広げられればと思います。 ・希望に沿った外出支援はスタッフ不足で大変そうですが、続けてほしい。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	原則として金銭は施設で管理しているが、所持を希望される方には家族と相談の上、少額を持っていただくこともある。買物などの際にはその都度説明し、本人の力に応じた金銭のやりとりを支援している。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	携帯電話やタブレット端末を活用し、家族との通話やテレビ電話の支援を日常的に行っている。年賀状や暑中見舞いなどの手紙支援もレクリエーションの一環として実施し、本人の思いを届けられるよう努めている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	安心・清潔を基本に、畳スペースやソファなど居室以外でも落ち着ける空間を整備している。季節の飾りつけや花の設置、中庭の菜園づくりなど、生活感・季節感のある工夫を取り入れ、ふれあいや会話が生まれやすい共用空間づくりを進めている。刺激を抑えた安全な環境づくりにも配慮している。		○ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	いろいろ工夫しながら環境づくりに取り組まれていると感じました。刺激を抑えた安全な空間づくりはとても大切だと思います。生活の場として安心して過ごせるよう、落ち着いた環境づくりが行われているように思いました。
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知症の進行により思いを言葉にできないことがあるが、表情や行動から意思をくみ取り、傾聴やゆっくりとした説明を通じて支援している。歩行練習や創作活動に自ら取り組む姿があり、生活のリズムに応じた支援を行っている。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活歴や趣味嗜好に基づき、ぬり絵や歌、日本舞踊などの活動を個別に支援し、他棟の友人との面会機会も設けている。今後も本人の歴史や人間関係を尊重した支援を継続していく。			

42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	便秘気味の方や痛みの訴えには服薬管理で対応しており、日々の健康状態を職員間で共有している。家族との連携のもと、必要な医療支援につなげている。		○ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	服薬管理や個別支援が丁寧に行われ、医療機関やご家族とも連携しながら適切に対応されていると感じました。日々の健康チェックや情報共有を大切にされており、安心して生活できる体制づくりに取り組まれているように思います。今後も継続を期待します。
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	難聴・弱視の方をはじめ、生活のペースや好みに応じて支援している。家族から好きな食べ物を届けてもらい、居室での時間やフロアでの交流を自ら調整されている。			
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	居室には思い出の品や好きな本・写真などを置き、携帯電話による家族との連絡も可能としている。物をため込む傾向がある方にはシンプルな環境づくりを行っている。		○ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	馴染みの物を身近に置ける環境づくりが、心の安定につながっていると感じました。すっきりしながらもほっとできる居室で、安心して過ごせる「生活の場」になっていると思います。生活の場としての支援が関係機関からも信頼されている様子がうかがえます。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている ○ C. あまりできていない D. ほとんどできていない	外出の希望が少ない方や下肢筋力の低下による不安のある方もおり、無理のない範囲での散歩支援や草抜きなどを通じて自然とのふれあいを行っている。	・出かけることが好きな方は、希望により催事に参加することができているよう感じる。 ・認知症サポーター講座を受講されている方との協力ができればと思います。		
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日常の中で職員の声かけに応じ、洗濯物たたみやお膳拭きなど役割を担っていただいている。体調に応じてできることとできないことを意思表示されている。			
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 十分にできている ○ B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	耳が遠く会話が難しい場面もあるが、笑顔や表情から生き生きとした様子が伺える。人の役に立つと感じる場面では特に意欲的に動かれることがある。		○ A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人ひとりとの対話を大切にし、その人の持つ力を活かす関わりが続けられていると感じました。活動の様子は掲示物などからも楽しく交流されていることが伝わってきます。生活歴や得意なことを活かした役割づくりが自然に行われ、互いに支え合いながら生き生きと過ごされている様子がうかがえます。

48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	地域との交流は限られているが、美容師の訪問や他棟の知人との面会、支部サロンへの参加を通じて関わりが続いている。声かけにも穏やかに反応されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活歴を意識した日々の役割により、今まで出来ていたことを継続できているように感じる。地域のイベントや行事などを通じて、地域の方から声かけしてくれることもあり、ちょっとした交流機会となっている。 ・日常生活や外出を含め、全体的によくされていると思います。 ・コロナ流行などもあり地域の方々との交流はまだ難しいものがあるかなとは思いますが、できる範囲で工夫されていると思います。 		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	<p>住み慣れた島での生活を継続できおり、施設での暮らしにもよくなじまれている。安心して生活を送られており、「ここに死ぬまで居る」と笑顔で話されるなど、満足感が感じられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の表情もよく、よい環境で安心して生活されている様子が伺えました。 ・住み慣れた地域で、こころ豊かに生活を送れている。 ・職員と信頼関係が築けている中で、の共同生活で、実家のように安心して生活しているさまが伺え素晴らしいと思う。 ・喜怒哀楽のすべてを出せる自分の居場所になっているように思う。 ・居心地よく自分のペースで生活できるのは大切なことだと思います。独居に不安を持ちながらも入所は自由がなくなるという声を聴きません。グループホームの PR もあってもよいのではと思います。 	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	<p>地域の中で暮らし続ける「生活の場」として、ゆいの家がしっかり根づいていると感じました。利用者さんの穏やかな表情や自然な笑顔から、安心して過ごされている様子が伝わってきます。地域行事への参加や日々のあいさつなど、地域とのつながりも大切にされており、地域の一員として共に暮らしているような温かさがあります。ここが「その人らしく生きられる場所」として大切に守られていると感じました。</p>

目標達成計画

作成日：令和 8年 2月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	利用者一人ひとりの生活ペースを尊重しているが、人員体制や業務都合により、職員のペースで生活が進んでしまう場面がある。 現在ゆいの家には自立度の高い方から日常生活の多くに介助を要する方まで状態差が大きく、支援に必要な時間や配慮が異なるため、個別対応のばらつきが生じやすい状況にある。	利用者一人ひとりの生活リズム・希望に沿った支援が、職員間で共通理解のもと実践できている状態をつくる。	職員会議およびケースカンファレンスにおいて、利用者一人ひとりの「得意なこと」「好きなこと」などの活動や役割への参加の視点と、「安心して過ごせる場面」「くつろげる環境」「身体の痛みや不快の軽減」など心身がリラックスできる状態の視点を意識的に分けて整理する。 認知症の軽度から重度まで状態にかかわらず、その人らしい時間の過ごし方を捉えることを目的とし、とかく活動や役割に注目しがちな支援だけでなく、安心して穏やかに過ごせること自体を大切な支援として位置づける。 整理した内容を「その人らしい1日の過ごし方（簡易シート）」として一覧で共有し、日々のケアの目安として活用するとともに、定期的な振り返りと見直しを行い個別性のある支援の継続につなげる。	6ヶ月
					ヶ月
					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。